

- エルジェ作 -



# タンタンと アルファアート

川口恵子 訳



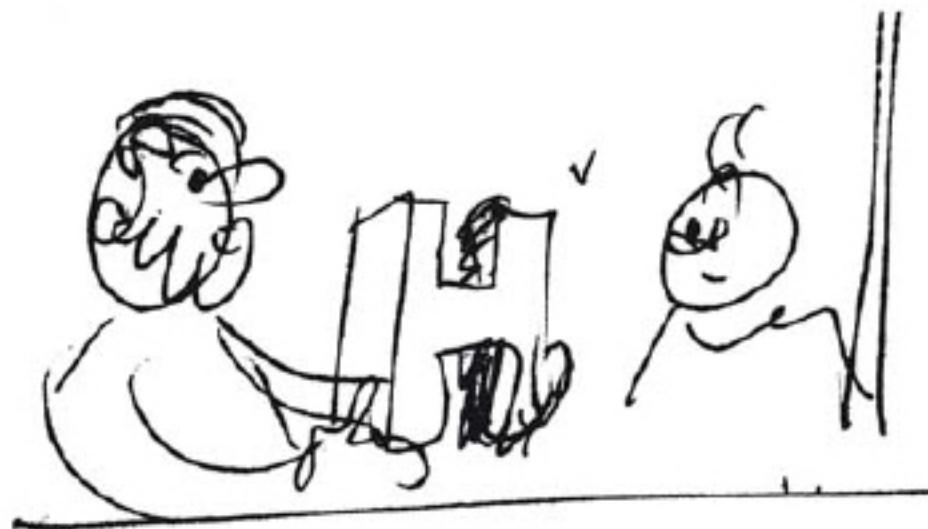
- エルジェ作 -

タンタン 最後の冒険



タンタンと  
アルファアート

川口 恵子 訳



**ハドック** ハドック。アーチボルト・ハドックです。

**フルカール** ハドックさん？ もしかして、タンタンのご親友の？

ハドック そうですが。

**フルカール** ハアハア、なるほど。ちょうど良かった！

タンタン君にお伝えしたいことがありますね。

近日中にお目にかかるでしょうか。

彼って、たしかルポ記者でしたよね。

いかにも興味津々といった顔で受付嬢がそばを通り

ハドック もちろんですよ。ムーランサールの

電話番号をお教えしましょう。ほら、これね。

ムーランサールの621番。

**フルカール** どうも。では、ラモ・ナッシュさんと一緒に  
いっしょに展覧会場をご覧になってください。

タンタン君には、数日中に電話しますよ。

ラモ・ナッシュ どうぞ こちらへ。

(ラモ・ナッシュは自信に満ちた様子でハドックを個展会場へ案内する。ところが、階段の下でカスタフィオーレとはち合わせてしまう)  
ピアンカじゃないか!

カスティフィオーレ あらま、ラモ！ 驚いたわあ。

二人は走りきつのまゝをかねて、愛付嬢はまた暇時歌く。

モモ・カツミー おどしられ ピアンカ

こちらにおられるのは、美術館の

### カスケードキー：カスコット船長さん

あなたがここにいらっしゃるなんて

ハドック（実はしらはていろいろのだが、お姫のきるを）

かねすこともできます) ピアンカ! 聰い

カスタフィオーレ こんなところでお会いするなんて、あなたもアルファアートに興味がおありなのね！スゴイわ。船乗りさんが美術に造詣が深いなんてビックリ！（カスタフィオーレはラモ・ナッシュを振り返り）あなたの藝術ってシンプルだけど、豊かで気品があって、物事の本質に迫ってるから、すべての人、美術なんかにはとても縁のないような... そうねえ、なんていうのかしら... あたくしみたいな教養のあるインテリじゃない人たちまで惹きつけてしまうってことが証明されましたわね。

カスタフィオーレ ああ、アルファアートってステキ！

始原への回帰、カスタムラ... じゃなかった、えーと  
そうそう、ラスコーの洞窟壁画の力強さにも負けない  
パワーを持ってて、要するにあたくしたちの時代を  
象徴するアートなんですね。それによって文明の起源  
に回帰する芸術！



車輪、火、固ゆで卵... 他に何があったかしら?  
ほんと天才よ、ラモったら！(てっふんに小さな球  
がのった奇妙な獨立台のようなもの前で立ちどまり)  
ごらんなさい、クラボック船長、この力強さ気高さ！  
これをながめた後は、なんだかすがすがしい気分に  
なりませんこと？

ハドック あ？ ああ...

カスタフィオーレ (船長をラモ・ナッシュの別の作品の  
前に連れていく。大文字のAとZが描かれた絵画)  
この作品は、全宇宙をぎゅっと圧縮したものだね。  
始まりのアルファから... 終わりの... ロメオまで  
じゃなかった... フィアット、ランチア... えーと  
オメガ？... ううん、もっと違う字だったかしら。

ハドック う...

カスタフィオーレ (巨大な「K」を描いたもう一枚の  
絵を見つけ) まっ、これはあなたのための作品よ。  
カルボック船長の「K」ですもの！

ハドック わしゃハドックだけど、ピアンカさん。

カスタフィオーレ まあ、あたくしちゃたら忘れっぽくて。  
(別のキャンバスを指さし) じゃあ、こっちの作品が  
ぴったり。アドックの「A」ですもの！

ハドック ハドックは H で始まるの！

ラモ・ナッシュ それでしたら、これはいかがかな？  
このブレクシグラス製の H。これはアルファアート  
であるばかりでなく、「パーソナルファアート」、  
すなわち、私的アルファアートでもあるのです！

カスタフィオーレ 天才。最高。素晴らしいわあ。  
超越的よ！ 船長のためにあるようなオブジェね！  
これを見のがすなんて手はありませんわ。

この作品は、あなたを待っていたのよ。

ラモ・ナッシュ ピアンカの言う通りです。  
これは、千載一遇のチャンスですぞ...



# その夜、ムーランサールにて...

ネストル お帰りなさいませ、だんなさま。

素晴らしい一日をお過ごしになられました？

ハドック (疲れきり、うつろな目をして)

ああ、素晴らしいよ...

タンタン (声だけ聞こえて) 船長？ 早く来て！

ハドック客間にかけつける。

タンタン (トマ・ダルティモンがインタビューしている

テレビ番組を見ながら) いいところに、船長。

ちょうどケメドの首長のベン・カリシュ・エザブ<sup>\*</sup>の  
インタビューが始まるところなんです。

首長 そう、ヨーロッパには買い物に来たんじゃよ。

英国政府にウィンザー城を購入したいと申し入れた。

あのお城をワテスターに移築しようと思ってな。

ところが、英國政府ときたら、金に困つるくせに  
断ってきおった。まったくもってわけがわからんよ。

フランスもそう。ヴェルサイユ宮殿を買いたいと  
言ったら拒絶された。エッフェル塔なんか、うちの  
油田のやぐらにちょうどいいと思ったんだがなあ。  
どこの国の政府からも、まったく理解が得られん。  
パリに最近建設されたあの製油所も、大金はたいて  
買収しようとしたんだが、美術館にされてしまって...

トマ・ダルティモン (飛びあがって) ポブルの

ポンビドゥー・センターのことですか！？

あれは製油所じゃない。正真正銘の美術館です。

首長 わかっとう、わかっとう。それが、フランス

政府の公式見解。じゃがな、わしや知っとるよ。

あれはほんとうは製油所で、それを美術館という  
ことにしとるだけ。だから、わしも真似をして、  
外観は製油所のように見える美術館自分で建設  
することにしたんじゃ。ところが...

すさまじい爆発音がして番組中止。テレビの前で  
隠っていたスノーウィと猫はびっくりして逃げる。

タンタン たいへん！ テロリストの攻撃だ！

なんでもないといいけど...

煙はたちどころに晴れる。画面には首長の息子の  
アフダラーが父親と並んで映っている。

\*『燃える水の国』ほか



※ 続きは本書でお楽しみください